

令和7年度研究発表会のご案内

POINT

「共に学びにひたる子どもと教師」について
本時の授業を基に語り合しましょう！

ポイント 探ってきた集団の学びの具体を提案します！

- 問いの解決や思いの結実を目指して試行錯誤する中で、他者と新たな意味や価値を創り出す子どもと、その姿に寄り添いながら共にたのしむ教師とで構成される集団の学びの姿を提案します。
- 昨年度に引き続き、教師が子どもの今を見取り、単元をリデザインしていく過程を、本校ホームページの教科ブログや、申込者限定の指導案公開ページでお知らせします。
- 午後の全体会では、講師の伊藤先生と熊本大学の藤瀬教授を交えた、パネルディスカッションや講演を通して、集団の学びの在り方をさらに探っていきます。

研究主題 **共に学びにひたる子どもと教師**
～集団の学びの在り方を探る～

日時 令和8年2月14日(土) 8:15～15:50

8:15	9:00	9:45	10:00	10:45	11:00	12:30	13:30	15:50
受付	公開授業Ⅰ	移動	公開授業Ⅱ	移動	各教科等分科会	昼食	全体会	閉会

会場 熊本大学教育学部附属小学校
内容 対面による各教科等の授業公開・分科会・全体会

全体提案 研究部長 上原 正士
 パネルディスカッション ファシリテーター 熊本大学教育学部附属小学校園統括長 藤瀬 泰司
 講演 「共に主体的に学びあうところ～自己調整と調整を共有するプロセス～」

お申し込みはこちら



事前申込 2月6日(金)まで

これ以降は当日参加扱いとなります。事前申込にご協力お願いいたします。

講師

九州大学 教授 伊藤 崇達 先生

主な著書

- 『グループディスカッションー心理学から考える活性化の方法』 金子書房
- 『ピア・ラーニングー学びあいの心理学ー』 金子書房
- 『自己調整学習の成立過程：学習方略と動機づけの役割』 北大路書房
- 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』 自己調整学習研究会（監修） 岡田涼・中谷素之・伊藤崇達・塚野州一（編）



附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ続々登場!!

● 実践・研究ブログ

校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。

<https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/elem/> 熊大附属小 検索



附属小学校SNS

本校の実践を SNS で発信しています。共に熊本教育を充実・発展させていきませんか？

熊大附小公式 Facebook

熊大附小 LINE 公式アカウント



研究主題

共に学びにひたる子どもと教師

～集団の学びの在り方を探る～



詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会 締め切り間近!!

ご挨拶

師走の候、皆様におかれましては、何かと慌ただしい日々をお過ごしのことと存じます。

本校では、今年度から、「共に学びにひたる子どもと教師」を研究主題として掲げ、集団の学びの在り方について議論を重ねてまいりました。授業は、子ども同士、または子どもと教師が互に関係性を築きながら、子どもたちが主体的に「深い学び」に向かう、学びの場の創造であると考えます。

研究発表会では、公開授業や分科会等において、研究成果をできるだけ分かりやすく提案したいと思います。ぜひ、それぞれの学校での取組と重ねて考えていただくとともに、集団の学びの在り方について皆様と議論を深め、明日からの授業実践につながれば幸いです。

全体会では、教育心理学がご専門の、九州大学大学院人間環境学研究院教授の伊藤 崇達先生に講師をお願いしています。また、先生には、熊本大学大学院教育学研究科 藤瀬 泰司教授とのパネルディスカッションにもご参加いただく予定です。

研究発表会当日には、多くの関係者の皆様にお会いできることをたのしみにしています。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 塩村 勝典

共に学びにひたる子どもと教師～集団の学びの在り方を探る～

研究部長 上原 正士



今年度、本校は新しい研究テーマを設定しました。「ひたる」とは、対象世界に没頭して何ものにも遮られることなく活動に取り組むことを意味しています。しかし、私たちが目指しているのは、それを「他者と共に」、そして「学びの局面で起こす」ということです。

昨今、一人一人の子どもたちに合うよう多様な学習形態を開発することが注目されています。しかし、その取り組み方によってはお互いの考えを通い合わせる機会がないまま、学びが孤立化していくことが危惧されます。

そこで本校では、これまで同様子ども自ら追究する学びを生み出す学習環境デザインを大切にすることに加えて、仲間と共に新たなものを創り出す集団の在り方について着目することにしました。特に、学ぶ集団に教師も位置付けて、共に学ぶ「学び手集団」としてつながり、関わり合う姿を目指しています。

研究発表会では、ここで紹介している16の公開授業を基に、今年度の実践を通して見えてきた「集団の学びの在り方」を提案いたします。子どもたちが、そして教師たちが共に学びにひたる姿をご覧いただければと考えております。本校職員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

公開授業Ⅰ

**国語科 第1学年 「自分と比べて読み、[ほくにとってエルフは・]を伝え合おう」
〈なる〉活動で、ほくの思いを想像する**



「エルフのことをはなします。」この一文から始まる本作品。ほくにとって、エルフはどのような存在なのでしょう。本実践では、〈なる〉活動を通して、ほくの思いを想像し、自分の経験や思いと比べながら、エルフのことを伝え合う授業を提案します。(廣田 健生)

**社会科 第6学年 「World Peace Project～日本にできること、私たちにできること～」
「世界」と「自分」をつなげる授業**



世界の課題は教科書の中だけの“遠い話”なのでしょう。本実践ではそれらに対し日本が行ってきた取組や世界との関係性に目を向けながら、今後の日本、そして自分自身にできることを考えます。その中で、世界の課題を自分事として捉える子どもの姿を目指します。(白石 和真)

**算数科 第2学年 「どんな分数がつくれるかな？」
様々な分数をもとの大きさに着目して捉える授業**



量分数の学習につなげるには、分割分数について、その形や分割した大きさだけでなく、分割する前のもとの大きさにも着目することが重要です。そこで操作を通して様々な分数をつくる中で、もとの大きさにも着目しながら考察する授業を提案します。(内田 武瑠)

**理科 第4学年 「探ろう！生き物の1年」
1年間の観察結果から生命のつながりを実感する授業**



4年生の季節と生物の単元では、観察が長期間に渡るため、1年間の流れとして変化を連続的にイメージしづらい子どもがいます。そこで、越冬に着目することで、見えないところでも命がつながっていることを感じることができる授業を提案します。(吉田 沙也加)

**生活科 第1学年 「ねんちょうさんとなかよしミッション！～もうすぐ2ねんせい～」
小学校入学がたのしみになるように、いっしょにできること**



「何でもやってあげたい」と考えていた子どもたちですが、年長児と関わる中で折り合いをつけることや協力する大切さを感じているところです。年長児が、小学校入学がたのしみになるように、これまでの成長を振り返りながらできることを考えていきます。(芦原 玲子)

**図画工作科 第6学年 「いろいろな材料を使って絵に表そう」
言葉から想像を広げて表し方を考えていく授業**



これまでの図工での経験を生かす小学校最後の題材とは、どのようなものなのでしょう。今回の授業で子どもたちの手元にあるのは未来の自分に向けた言葉です。言葉に込めた願いを形や色で表し、試行錯誤しながら表し方を考えていく姿をご覧ください。(安田 晶子)

**体育科 第3学年 「ゴールへ向かえ！フォワードゲーム」
仲間とパスを繋ぎ、ゴールを目指すゲーム**



ゴール型の教材において、ゴール方向へ動くことの意識が薄い子どもを多く見かけます。そこで、本実践ではゴール前までボールを運ぶためにどこでパスを受けるといいかを考え、自分の運動の課題を明らかにしながら追求していく授業を提案します。(山本 祐之介)

**保健・健康教育 第5学年 「セルフサポートシートで心のピンチに備えよう」
心の元気を保つためにはどんな方法があるだろう**



毎日元気に過ごすためには、体だけでなく心の調子も大切です。場面や状況に応じて、自分の心の状態がどのように変化するのかを知り、困った時にどうしたらよいか、自分に合った方法を見いだしていく子どもの姿をご覧ください。(村上 朋美 安倍 堅介)

公開授業Ⅱ

**国語科 第5学年 「心情の変化に着目して読み、「大造じいさん伝記」を書く」
伝記を書くことで大造じいさんの人物像を想像する**



国語学習の中で伝記を読み、人物の生き方にふれ、自己の考えを広げた子どもたち。本実践では、心情の変化に着目しながら大造じいさんの伝記を書くことを通して、人物像を具体的に想像し、大造じいさんの生き方から自己の考えを広げる子どもの姿を目指します。(木下 忠志)

**算数科 第6学年 「数の世界を広げよう」
0と出会い直し、演算を手がかりに数の見方を広げる授業**



加法で99を超えたら失格になるゲームで遊びながら、他の演算を用いることで、子どもたちが数の見方を広げていきます。その過程で子どもたちは0と出会い直し、0の意味やその性質を見いだします。6年間で培った見方・考え方を働かせ合う姿をご覧ください。(津川 郷兵)

**体育科 第1学年 「ねらえ！エイムゲーム」
すきまを見つけて仲間と一緒にゴールを目指せ！**



鬼遊びの学習で、「空いている空間」に着目して動くことができるようになった子どもたち。ボールゲームでも鬼遊びで使用したコートを活用し、得点するための動きを試行錯誤していく中で、連携することの意味を見いだす授業を提案します。(西 沙織)

道徳科 第3学年 「人の喜び「いちばんうれしいこと」(B 親切、思いやり) 自分の「喜び」観に立ち止まり、見つめ、更新する授業



やなせたかしさんが考える人の喜びとは何なのか、やなせさん自身のどのような経験が影響を与えたのかを話し合います。その上で、これまでに学習した道徳的価値と他者の「喜び」観と自分の「喜び」観とを相対的に見て、なりたい自分を更新する授業を提案します。(山平 恵太)

**社会科 第5学年 「届けよう！ラジオの災害放送～自分たちのくらしを守る最適な放送とは～」
ラジオ放送の意義に気づき、報道の役割にせまる授業**



子どもたちは災害時にラジオ放送が役立つことは知っていますが、情報の伝達という役割にしか目が向いていません。そこで、実際に情報を発信する立場を経験していくことで、ラジオ放送の多面的な意義に気づき、報道の役割にせまる授業を提案します。(安倍 堅介)

**理科 第3学年 「つくろう！じしゃくワンダーランド」
磁石の性質を量的に捉え、ものづくりに生かす授業**



生活でよく利用する磁石。子どもたちは磁石の特徴は知っていますが、どれくらい引き付けるか等、定量的に調べたことはありません。そこで磁石の性質を量的に捉え、それをどのように利用したいかを考えながら、自分たちのものづくりに生かす授業を提案します。(柿原 智明)

**外国語活動 第4学年 「友達や自分の「らしさ」を発見しよう！」
英語表現を使って、自分「らしさ」を伝え合う授業**



中学年最後の外国語活動として設定されている「This is my day.」の単元。子どもが中学年で繰り返し慣れ親しんできた英語表現を使って自分の一日の生活を紹介します。その中で、より自分らしさを伝えるための表現を子どもと共に考えていく授業を提案します。(福永 真紀子)

**特別活動 第4学年 「オリジナル給食こんだてを決めよう！」
給食を選ぶ活動で今の自分たちに必要な栄養を考える**



食べ物の3つの働きについて学習してきた子どもたち。本実践では、給食メニューから自分なりのオリジナル献立を決めていきます。その際、他教科の食に関する学習を関連付けることで、食べ物を栄養素で見つめ、考えていく子どもの姿を目指します。(吉田 沙也加 上月 直美)